



2021年10月20日

校長 松永和彦

## はじめに

令和3年度も継続して、新型コロナウイルス感染症対応で会員企業の皆様にご協力頂いている事業内容の大幅な変更がございました。

事業内容変更に関するご理解を賜りましたことに感謝申し上げます。

## ■ 実践技術者の育成

厚生労働省所管の県立の短期大学校として平成7年設立

- ・産業技術分野における高い技能と技術及び学識を持つ創造性豊かな実践技術者を育成し、もって地域社会及び経済の発展に寄与することを目的とする(学則第1条)
- ・在職者訓練(スキルアップセミナー)

## ■ 県の職業能力開発推進中核拠点

人材育成支援課(人材育成支援センター)

- ・公民連携プロジェクトの推進(職業訓練カリキュラムの研究開発)
- ・中小企業の人材育成支援(在職者訓練のコーディネート)
- ・職業訓練に関する情報提供
- ・職業訓練の支援、説明会、指導員研修、推進協議会事務局

# 当校の組織

2021年4月1日現在

職員数:67名

学生数:307名

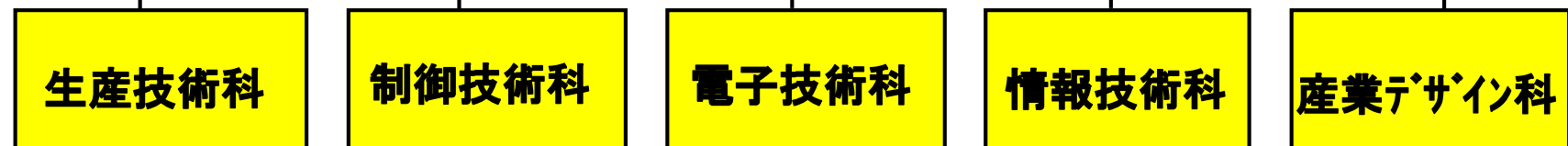
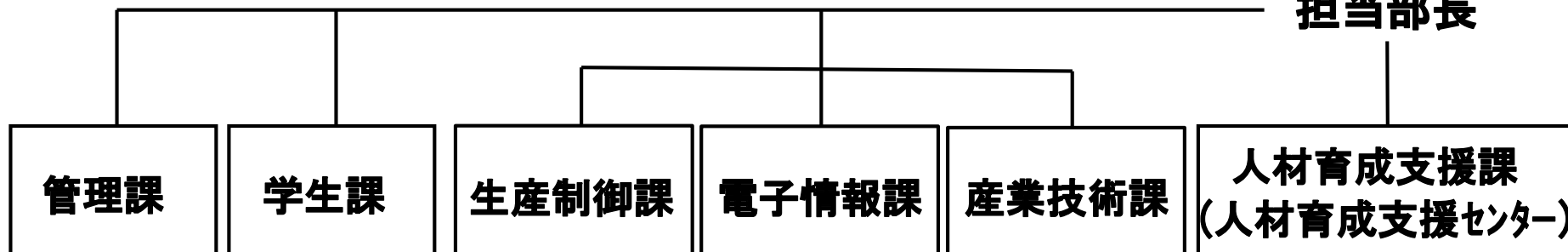
(1年生162、2年生145)

**実践技術者の育成**

校長  
副校長

**県の職業能力開発推進中核拠点**

担当部長



指導員数

7

7

7

6

7

4

- 取組1) 留学生 受け入れ & 就職
- 取組2) 西キャンパス建て替え準備
- 取組3) かながわP-TECH
- 取組4) KCITあり方
- 取組5) 地域貢献
- 取組6) 講師研究

## 対象:

高校卒業以上の学力と日本語能力(日本語能力試験:N2以上)を持つ日本語教育機関の卒業生で、専門課程で技術を習得し県内企業で、ものづくりの仕事に就きたいとの希望を持つ方

## R3年度生:

生産技術科2名、制御技術科2名  
電子技術科3名、情報技術科3名  
全体で10名受入れ

## R2年度生(留学生第一期生)

9月30日現在  
在籍者8名  
就職内定者5名

# 取組2) 西キャンパス建て替え準備



本館棟: H2年3月31日建設  
実験実習棟: S63年3月31日建設  
体育館: S63年3月31日建設

**東キャンパス**

20,872m<sup>2</sup>

参考: 横浜スタジアム  
26,200m<sup>2</sup>

R4年10月新キャンパス完成予定





令和2年12月17日  
記者発表資料

## IT 人材教育モデル、「かながわ P-TECH」に関する協定を、日本アイ・ビー・エム株式会社と締結します

公立校同士の5年間教育モデルとしては全国初の取組となります

神奈川県、神奈川県教育委員会及び日本アイ・ビー・エム株式会社(以下、「日本IBM」)の3者の連携と協力により、生徒・学生が家庭の経済環境に左右されることなく、ITに関する知識・技術を身に付け、生涯にわたって社会で活躍するIT人材の育成をめざす取組「かながわIT人材教育モデル P-TECH」を推進します。





入校生確保の活動として、「KCITあり方」3つの取組

- 1)「ホスピタリティー向上」
- 2)「魅力づくり(校のウリ)」
- 3)「時代ニーズに合ったコースの設定」

この具体的な活動として以下を継続

- ①魅力発信グループ(定員確保対策Gを改称)  
・校通信制作プロジェクト
- ②ソーシャルメディアによる情報発信 継続
- ③同窓会設立検討 継続

産業技術短期大学校メディア放送

tvk「カナフルTV」 9月5日

FMヨコハマ84.7「KANAGAWA Muffin」 9月11日

・近隣の小学生に「ものづくり」への興味を持っていただく 地域貢献事業

①小学4～6年生「ものづくり体験」“LED照明付きスマートフォンスタンド”  
の制作とHP作成 → R1年度:28名参加(8月24日)

②小学3年生「たんだい探検ツアー」機械、電気・電子、デザイン、情報の4分野を  
2日間で見学、体験 → R1年度:中尾小学校3年生64名参加(9月24日,10月1日)



R3年度中止



・中尾小学校 共同事業: 発達障害の児童向けの教育器具作成

**目的** 人材育成に係る各種の研究、調査や自らの知識・技術・技能の向上に関する活動を行う

## R2年度研究報告

- ・生産技術科  
「モノづくりのデジタル化を体験する教材作成」
- ・制御技術科  
「制御技術科の学生による技能検定3級普通旋盤作業の挑戦」  
「メカトロニクス実習における立体型教材の試作」  
「3次元CAD実習の学習支援教材の作成」  
「企業ニーズ調査等に伴う制御技術科授業カリキュラム  
変更のための卒業生・企業調査[2]」
- ・電子技術科  
「マイクロコンピュータを中心としたデバイス間通信教材の開発」  
「シーケンス制御実習で使用する実習教材の作成」

## R2年度研究報告

### ・産業デザイン科

「インフォグラフィックについて」

「3Dプリンタを活用したカリキュラムの作成[2]」

「デザイン分野における人間工学のあり方」

### ・情報技術科

「IPv6アドレスを使用した実習環境の構築及び教材の作成について」

「情報技術科2年生対象

C++言語プログラミングに関する教材の見直し」

## 中間報告

- ・生産技術科  
「NCフライスの原理習得を目的とした教材作成 [2]」
- ・制御技術科  
「FAシステムに関する訓練内容の検討と補助教材の作成[1]」
- ・電子技術科  
「近距離通信技術についての教材作成[1]」
- ・情報技術科  
「基本情報技術者試験合格に向けたアプローチ手法の検証[1]」
- ・共通分野  
「募集広報活動の新たな取り組みについて[1]」

## 在籍学生数

R3年4月1日現在

学科	学年	在籍者	
		男子	女子
生産技術科	1年	28	0
	2年	23	2
制御技術科	1年	14	2
	2年	19	3
電子技術科	1年	31	3
	2年	27	1
産業デザイン科	1年	14	26
	2年	10	26
情報技術科	1年	37	7
	2年	29	5
合計		232	75

### 退学者数の推移

H28年度			H29年度			H30年度			R元年度			R2年度		
1年	2年	計	1年	2年	計	1年	2年	計	1年	2年	計	1年	2年	計
25	1	26	39	7	46	31	7	38	26	4	30	27	5	32

## 技能照査

- ・職業能力開発促進法第21条(技能士補)
- ・企業に本校の最低限能力を担保する

卒業要件として受検必須  
100%合格を目指す

- |      |  |
|------|--|
| 学科試験 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技能の裏づけとなる関連知識の習得度</li> <li>・基礎知識(生産活動に関連したこと)</li> </ul> |
| 実技試験 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・製品を製作して審査</li> <li>・技能習得の程度を評価</li> </ul>                |

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
生産技術科	100%	82.4%	93.1%	100%	100%	100%
制御技術科	86.6%	87.1%	71.0%	93.5%	100%	83.3%
電子技術科	85.1%	95.8%	74.0%	92.3%	85.7%	87.5%
産業デザイン科	100%	100%	100%	100%	100%	90.9%
情報技術科	67.8%	86.1%	71.4%	76.7%	60.0%	60.6%
平均	88.6%	89.9%	82.6%	92.8%	88.8%	83.0%

# 学生指導の状況(3)



## ■就職状況

### 学科別就職状況

就職率は就職希望者に対する就職者の比率

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
生産技術科	100%	100%	100%	100%	100%	100%
制御技術科	96.6%	100%	87.5%	100%	95.2%	100%
電子技術科	100%	100%	95.8%	100%	94.3%	100%
産業デザイン科	96.8%	91.2%	100%	100%	100%	90.0%
情報技術科	100%	100%	100%	100%	87.5%	79.3%
平均	98.6%	98.1%	96.9%	100%	95.4%	92.7%

## ■R3年度卒業生対象求人数と内定実績(9月10日現在)

求人企業数 : 350社(昨年8/末 339社) 推進協169社  
求人数 : 1,202人( // 1,174人) 推進協459人  
内定率 : 63.4%( // 63.6%)

内訳(生産95.7%、制御82.4%、電子53.8%、産デ41.7%、情報61.3%)

例年推進協への就職は60%台で、

今年度も現時点で、68.7%となっている。



## 卒業制作研究 (制作研究の基本的なプロセスを身につける)

### R2年度 各科優秀賞表彰

- ・生産技術科  
「pico-EVの製作」
- ・制御技術科  
「物の運搬が可能な多脚ロボットの製作」
- ・電子技術科  
「RGB LED matrix panel を用いた多機能電光掲示板の製作」
- ・産業デザイン科  
「新たなプライベートブランドで販売するお菓子のパッケージ考案」
- ・情報技術科  
「手描きの計算式(四則演算)を自動で計算するアプリの作成」

## 競技大会への参加

### ■若年者ものづくり競技大会(20歳以下)

旋盤, 機械製図(CAD)、電子回路組立て、グラフィックデザイン

H28年度 ・電子回路組立て職種 (敢闘賞)

H29年度 ・グラフィックデザイン職種 (2位)

・電子回路組立て職種 (敢闘賞)

R3年度 ・機械製図(CAD) (敢闘賞)

### ■技能五輪全国大会

H28年度 ・電子機器組立て職種 (1名参加)

R2年度 ・電子機器組立て職種 (1名参加)

### ■Hondaエコマイレージチャレンジ出場

R2,R3年度中止

H29年度 出場 (16位:730km/ℓ、37位:253km/ℓ)

H30年度 出場 (10位:591km/ℓ、リタイア)

R1年度 出場 (16位:750km/ℓ、19位:729km/ℓ)

## ・デザイン産学連携プログラム:

横浜市(工業技術支援センター)のコーディネートで企業への提案を実施

H29年度 フォトエッチングメーカーとのコラボ

H30年度 デジタルサイネージ装飾のデザイン提案

R1年度 段ボールを使ったオリジナル製品開発

R2年度 プリント基板の廃材を利用した雑貨のデザイン提案

R3年度 梱包用パッケージ材料を使った高付加価値商品の提案

## ・推進協議会会員企業殿との連携:

### ・グッドヒューマンネットワーク講座

R2年度 34回「新型コロナウイルスに負けるな！ ～正しい情報と防御対策を～」  
長田 展明 氏 (R3年3月4日)

R3年度 35回「自ら目標を掲げ、挑戦する！  
～自律的・主体的に行動し社会に貢献する若い力～」  
NPO 法人 SoELa 代表 理事 岡部 佳文 氏、  
Salamat、More、SEPARS各団体代表者 (R3年9月8日)

### ・テクニカルショウヨコハマ2022出展

ハイブリッド方式 (R3年2月2日～4日)

# おわりに

継続してコロナ対応を実施しております。

短大校も「新しい生活様式」に対応した工夫を施しながら訓練を推進しております。

会員企業の皆様におかれましても、様々なご苦労がある局面かと思われませんが、引き続き、当短大校へご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

校長 松永 和彦